

広島県環境影響評価技術審査会 第15回第1部会議事録

(1) 開催日時

平成29年10月3日(火) 10:00~12:30

(2) 出席者の氏名

委員：西田委員 内田委員 中井委員 前川委員 久我委員 内藤委員 矢野委員

参考人：瀬戸内共同火力株式会社, 中電環境テクノス株式会社

(3) 会議に付した議案の件名

福山共同発電所更新計画の環境影響評価準備書に係る審査について

(4) 議事の概要

- 環境部長の挨拶の後、西田部会長の議事進行により議事が開始された。
- 第1部会委員8名中、出席委員7名で、広島県環境影響評価に関する条例施行規則第47条第5項の定足数(半数以上)を満たした。
- 矢野委員を議事録署名委員に指名した。

■事業の概要、手続きの経過について

(事務局) 資料1により説明。

■住民意見の概要と事業者の見解について

(事務局) 資料1により説明。

■関係市長意見について

(事務局) 資料1により説明。

(以下、資料1を用いた事務局の説明は省略し、内容に係る議論のみ記載)

■全体的事項について(資料1P4)

(委員) 4つ目の知事意見案として「評価書の公表に当たっては、広く環境の保全の観点から意見を求められるよう印刷可能な状態にすることや、法に基づく縦覧期間終了後も継続して公表しておく等、利便性の向上を図ること」となっているが、どれくらいの期間の縦覧を考えているのか。

(事務局) この意見については、近年の住民の環境影響評価への関心の高さから、今回広島県の意見として追加させていただいた。期間としては、事業の工事が終了するまでを想定している。

■環境影響評価項目の設定について(資料1P5~6)

(委員) 意見なし

■ 大気環境（大気質）について（資料1P7～34）

（委員） 新2号機では重油を使用しないとあるが、着火はどのように行うのか。

（参考人） 今回使用する燃料は高炉から発生する副生ガスを使用する。カロリーは低いですが、着火時には電気スパークをかけて点火する。

（委員） 2、3号機では、補助燃料として着火のときだけ重油を使用していたのか。

（参考人） 燃焼安定のために使用していた。新2号機については燃焼器を備えているので、補助燃料は必要ない。

（委員） ガスの中に硫黄分は含まれているのか。

（参考人） コークス炉ガスと高炉ガスに低濃度だが硫黄分が含まれている。

（委員） 光化学オキシダント等は現況は環境基準を超過しているということだったが、予測結果では環境基準を下回るとなっている。数値的な関係はどうなっているのか。

（事務局） 環境影響評価項目として硫黄酸化物、窒素酸化物、浮遊粒子状物質が挙げられており、光化学オキシダントや微小粒子状物質はこれらの物質の二次生成物となっているため、知事意見案はこれらの物質を排出抑制するようとしている。

（委員） 知事意見案に、「実行可能な範囲で新2号機あるいは新1号機の年間設備利用率を高めること」とあるが、どのくらいの設備利用率を想定しているのか。

（事務局） 設備点検等もあるので、100%は無理だと思われるが、実行可能な範囲で最大限利用することを想定している。

■ 大気環境（騒音・振動）について（資料1P35～44）

（委員） 騒音の予測結果では、合成値が現況実測値よりも少し高くなっている。事業者の説明では、合成値は現況実測値に加算しているため、計算上どうしても高くなるので、実質は現況と変わらないとのことだった。しかし、この結果を外に出すと、騒音が大きくなると思われる可能性があるため、表現を変更できないか。

（参考人） アセスの考え方により最大影響を予測するため、予測値は負荷100%で予測したものとなっている。その結果、合成値は高くなっているが、実情全ての施設を100%稼働することは考えられない。しかし、バックグラウンドの騒音も発電所のものだけでなく、稼働率を調整して影響を予測するという事は表現しにくい。

（部会長） 表現方法についての意見内容を事務局と調整する。

（委員） 予測結果において、現況実測値よりも合成値が高くなっているため、審査結果の「環境影響が低減していると認められる」という表現はそぐわないのではないかと。

（事務局） 審査結果から削除する。

(委 員) 資材等の搬出入に係る知事意見案について、騒音では「主要な輸送経路沿いには、学校等が存在していることから低減に努めること」とあり、振動では知事意見案はなしとしているが、違いはあるのか。

(事 務 局) 知事意見案に振動についても同様の内容を記載する。

■ 大気環境 (その他) について (資料 1 P45~48)

(委 員) 予測結果の合成値はどのような計算をしているのか。

(参 考 人) 計算は現況実測値に新 2 号機の予測値を加えたものになっている。現況実測値を一旦音圧レベルに戻し、予測値を足して 20log で表現している。単純に足し算した数値とはなっていない。

(委 員) 2, 3 号機の値は引かなくてよいのか。

(参 考 人) 現況測定時には 2, 3 号機は停止中で計算に入っていない。新 2 号機は民家に近いところに設置するため、2 デシベルほど高くなっている。

■ 水環境 (水質) について (資料 1 P49~57)

(委 員) 審査表の監視項目に残留塩素が記載されているが、この環境保全措置の内容と、同様に残留塩素を取り上げている動物の項目での環境保全措置の内容が異なるが、意味があるのか。

(事 務 局) 記載間違いであるため、監視項目から残留塩素を削除する。

(委 員) 工事中の最大建設工事排水量約 600 m³/日の内訳を知りたい。大雨も想定されるが、仮設タンクの容量は妥当なのか。

(参 考 人) 建設工事排水は 10mm/hr で 10 時間降雨した場合を想定し、面積を考慮して 600 m³/日としている。降雨 10mm は、過去 10 年間の最大降雨量より算出している。

(委 員) 水の濁りについて、予測結果の書き方がわかりにくいため、工夫すること。

(事 務 局) 書き方を工夫する。

(委 員) 審査結果と比べて、知事意見案で「可能な限り具体的に記載すること」と表現が弱められているが、なぜか。

(事 務 局) 基本的には具体的に記載することとしているため、「可能な限り」という文言は削除する。

(委 員) 冷却水の量は変わらないのか。

(参 考 人) 既施設分も合わせて 32.2 m³/s から 30.4 m³/s に低減する。新 2 号機はコンバインドサイクル発電方式であり、ガスタービンの中は冷却する必要がないので、必要な冷却水量が減っている。

■ 水環境（底質、その他）について（資料1 P58～59）

（委員） 温排水のシミュレーション解析で2次元とあるが、平面と考えてよいか。

（参考人） 平面である。

（委員） 水温のときは鉛直方向に変化があるというグラフが示されているが、流向及び流速は2次元の検討で十分なのか。

（参考人） 一番大きい影響の代表として表層だけ算出している。2次元の計算をしているが、3次元の分布を前提とした予測を行っている。水温は若干生物影響も考えて下の方も算出している。

（委員） 底質については比較できるような予測結果ではないので、審査結果の「環境影響が低減されていると認められる」という表現はそぐわない。

（事務局） 審査結果から削除する。

■ 動物・植物について（資料1 P60～70）

（委員） 重要な種というのは、あくまで学術上又は希少性の観点からという考え方になるのだろうが、水産関係から考えると、希少種だけが重要な種という表現に違和感があるため、表現方法を検討してはどうか。

（事務局） 審査表の表現について修正する。

（委員） 次亜塩素酸を使用するとあるが、どのような使用方法で、どのように管理しているのか説明があった方がよい。

（参考人） 次亜塩素酸は、排水口で検出されない濃度まで入口濃度を調整している。出口の濃度を管理しており、現在は週に一回外部機関に測定してもらっている。連続測定は行っていない。

（事務局） 評価書では次亜塩素酸に関する管理方法等について記載するよう知事意見案を修正する。

（委員） 植物プランクトンの記述方法に誤りがあるので修正すること。

（事務局） 確認して修正する。

■ 生態系について（資料1 P71～74）

（委員） 審査結果と知事意見案の表現を揃えること。

（事務局） 修正する。

■ 景観・人と自然との触れ合いの活動の場について（資料1 P75～81）

（委員） 意見なし

■ 廃棄物について（資料1 P82～85）

(委 員) 審査表の表題の標記方法をわかりやすくした方がよい。

(事 務 局) 表題を修正する。

(委 員) 施設稼働後の審査結果が「工事の実施の伴い発生する廃棄物」となっているため、修正すること。

(事 務 局) 修正する。

(委 員) 事業場内の埋め立て処分場で廃棄物を処理しないのか。

(参 考 人) 事業場内の埋め立て処分場では、現在汚泥の埋め立てを行っている。建設工事で汚泥はほとんど発生しないため、処理するものはないと考えている。

■ 温室効果ガスについて (資料 1 P86～87)

(委 員) 新 1 号機の排出原単位が若干増えているのはなぜか。

(参 考 人) 新 1 号機は高炉ガスと混合ガスを利用するが、これらは環境省が定める温室効果ガス係数が高いガスである。基本的に効率の良い新 1 号機等で温室効果ガス係数が高いガスを使用するという計画である。逆に既設の施設では排出原単位が下がり、発電所全体も下がる。また、将来は燃料のガスバランスも変わっていることも影響している。

(委 員) 知事意見案に「副生ガスを最大限に有効利用できるよう」とあるが、副生ガスの使用量に大きな変動等はないので、関係性が理解できない。

(事 務 局) 知事意見案を修正する。

■ 全体審議について

(委 員) 意見なし

■ 答申の作成について

(部 会 長) 出された意見を踏まえ、内容の修正を行うが、修正については、部会長にご一任いただきたいがよろしいか。

(委 員) (異議なし)